

Thème 1

「データベースソフトを活用した
フランス語の授業の実践と可能性」
Pratique et possibilités dans la classe de français
à l'aide d'une base de données

川口 陽子
KAWAGUCHI Yoko
Université de Kobe

QWS10233?nifty.com

黒田 恵梨子
KURODA Eriko
Université des études
étrangères de Kyoto

e_kurod?ab.auone-net.jp

神谷 健一
KAMIYA Kenichi
Institut de technologie
d'Osaka
kamiya?ip.oit.ac.jp

1. フランス語の授業のための3つのツールの概略（神谷）

本研究は平成24年度～27年度科学研究費補助金『データベースソフトを活用した初習外国語授業における教材提示の円滑化と授業の活性化』（研究課題番号：24520675）による成果の一環である。本研究課題では8言語への対応を目指し、数多くのツールが開発されたが、このうちフランス語のために開発された「動詞変化形提示ツール」と全言語共通のツールとして開発された「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」および「四択問題作成・提示ツール」の3つのツールを授業実践に応用する可能性について紹介するものである。

本稿で紹介するツールは以下のコンセプトに基づいて開発されている。

- (1) 最小限の設備で：パソコンとプロジェクタ（スクリーン）
- (2) 最小限の手間で：1回限りの入力
- (3) 黒板とチョークでは絶対にできないことを可能に

まず(1)については、普通教室での利用を想定すると、インターネット環境さえも利用できないことが前提となる。また Windows にも Mac OS X にも対応可能な無料ソフトで実現できること、そしてデータベースに関する知識も不要であることが求められるが、CALL 教材の多くはこれらの前提を満たしていない。

(2)については「1回限りの入力」を実現するためには PowerPoint のようなスライド提示ソフトではなくデータベースソフトが有効であると考えられる。なぜなら PowerPoint で作られた教材の場合、使いたいスライドのみの抽出や、提示順の変更が困難であり、ほぼ作成した通りにしか表示できないという欠点がある。その点、データベースソフトで作成した教材の場合、教材データとそれを表示するレイアウトを別々に管理すること、またスクリプト制御により部分的な表示・非表示の切り替え等ができるなど、多目的かつ柔軟な利用ができるという利点がある。

(3)についてはこれまでのほぼ全ての教材が想定していないことであるが、こうした観点も今後検討されて良いと考える。この特徴は科研プロジェクトの題目にも含まれる「教材提示の円滑化と授業の活性化」にも繋がる。そして以下で示す川口および黒田による実践事例（案）は、まさにこの好例と言えよう。

それぞれのツールは <http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/fra/> から無料でダウンロードできるようになっているので、是非ともお試しいただきたい。

2. 「四択問題作成・提示ツール」を用いた授業実践報告（川口）

「動詞変化形提示ツール」に関しては黒田・川口・堂浦・井上・神谷（2013）お

よび川口・黒田・堂浦・井上（2014）を、「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」に関しては川口・黒田・神谷（2014）を参照頂くとし、以下では「四択問題作成・提示ツール」を用いた授業実践について、2014 年度後期（秋学期）に担当した第 2 外国語としてフランス語を学ぶ 2 年生対象コミュニケーションクラスでほぼ毎回行った、授業冒頭で本ツールを用いた文法復習（各回 5 問）の場面について報告する。

授業前準備としてはまず、本ツール用 Excel テンプレートをダウンロードし、新規作成用シートに四択問題を入力、Excel ファイルを作成した（図 1）。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
ID	問題文 1行目	問題文 2行目	問題文 3行目	問題文 4行目	問題文 5行目/指示文	正答	誤答1	誤答2	誤答3	ヒント	分類タグ	自由記号類1	自由記号類2	作問者情報	タグ付与者
50	A : Il est toujours directeur dans ce bureau?	B : Non, il _____ ce poste il y a deux an.			abandonner	abandonne	abandonnera	abandonnait			動詞 3級			kawaguchi	
51	A : Je dois passer mon examen de violon dans un mois.	B : Tu _____ si tu fais ces exercices tous les jours.			réussiras	réussis	réussissais	réussisses	réussir		動詞 3級			kawaguchi	
52	A : Je passerais chez toi demain après-midi.	B : Non, Je veux que tu _____ demain matin.			viennes	viens	venais	viendras	venir		動詞 3級			kawaguchi	

(↑ 図 1)

(↓ 図 2)



(← 図 3)

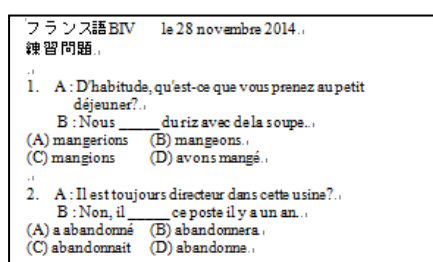


(図 4→)

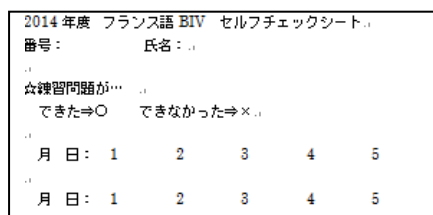
作成した Excel ファイルをツールに取り込むには、メイン画面（図 2）の「オプション」ボタンで現れる画面（図 3）で、問題データベース関連の「新規取り込み（標準）」から必要な Excel ファイル・シートを選ぶ。次にメイン画面（図 2）へ戻り、必要な問題の左端の四角（採用）にチェックを入れると、入れた順に番号が割り振られる。「採用済問題」ボタンで採用済み問題だけを表示し、「作成」ボタンで問題作成画面（図 4）へ移る。そこではすでに問題が作成されており、それを Ctrl +

CでコピーしてWord文書へ貼り付け、配布用資料を作成する。その際、問題作成画面右下にある「選択肢順を固定」にチェックを入れておくと、プリントと同じ選択肢順で問題をスクリーンに映し出すことができる。

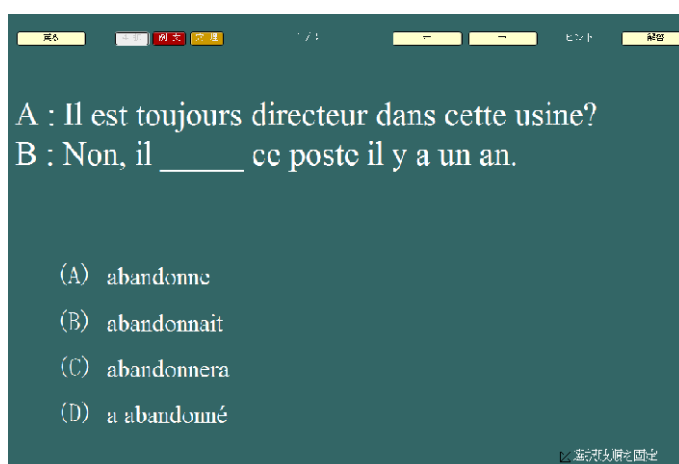
実際の授業では、まず問題用紙(図5)とセルフチェックシート(図6)を配布する。問題を1題ずつスクリーンに映し出し(図7)、学生1名を指名して答えさせ、すぐに正答・誤答ともに取り上げて解説する。学生達は手元の問題用紙に必要なに応じてメモを取り、問題ごとの○×をセルフチェックシートに回答する。そして練習終了後にはセルフチェックシートのみを回収し、平均点や問題ごとの正答率を把握するのに役立てた。さらに学期末には、動詞に関する練習問題から正答率が低かった10問を選び、復習テストを行った。この際もツールを用いることで、問題の選択や出題順、選択肢順の変更に必要な手間や時間は、全てを手動で行う場合に比して大幅に削減されたように思われる。



(↑図5)



(←図6)



(↑図7)

以上のように、授業内で練習に当てられる時間が限られている条件下での文法復習練習へのツールの活用は、教師側ではスクリーンに全てを映し出すことで板書せずに出題・解説ができ、学生側でもプリントとスクリーンを連動させることで答え合わせやメモがしやすく、効率よく授業を進める助けとなったと言えるだろう。

3. 複数のツールの併用・連動の試み (黒田)

ここでは、3つのツール(「動詞変化形提示ツール」「フラッシュ型例文・対訳提示ツール」「四択問題作成・提示ツール」)をそれぞれ組み合わせて行う、授業実践と試みについて述べてみたい。

筆者は授業において、各ツールを単独で用いたり、あるいは複数組み合わせて使ったりしている。ツールは一つだけでなく、複数を併用することで、より大きな学習効果が得られると考えている。



(図8)

复合過去の習得を例に挙げてみると、まず基本となる助動詞 avoir と être の活用を「動詞変化形提示ツール」で復習し、その後、同じツールで复合過去の練習を

行う。(図 8)

助動詞が avoir の場合と être の場合について、複合過去の変化パターンがしっかり頭に入ったら、今度は「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」を使って、実際の文として複合過去を使えるか練習する。初級クラスの場合は、フランス語文を提示して、「発音確認」→「和訳」→「最後に日本語のみ提示して和文仏訳」の手順で練習するが(図 9)、中級クラスなど構文がすでに身につけている場合は、初めから日本語のみを提示して「和文仏訳」をさせてみることもできる。また例文提示による練習が学生にとって難易度が高い場合は、最初に穴埋め提示による練習をして、ポイントとなる箇所のみ答えさせる、という方法も可能である。(図 10)



(図 9)



(図 10)

穴埋め提示による練習で複合過去の助動詞をよく理解した上で、例文提示による練習に移ると、学生もより自信を持って答えられるのではないかと考えている。そして、学生の理解がまだ十分に進んでいないクラスであれば、さらに難易度を下げ、「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」の前段階として、「四択問題作成・提示ツール」による練習を取り入れることも可能であろう。すなわち穴埋め提示の部分に選択肢がつくことで、学生はより問題に取り組み易くなる。(図 11) 四択問題であれば、練習においてもゲーム感覚が増し、理解度の低い学生にとっても回答がより容易になるので、クラス全体のやる気の向上にもつながるのではないだろうか。



(図 11)

このように、ツールはそれぞれ単独で使用する場合でも十分に効果があるが、複数のツールを組み合わせることによって、それぞれ補完作用や相乗効果生まれ、ツールを使った教授法の可能性は大いに広がるものと思われる。

以上、3つのツールの併用や連動について、筆者の取り組みやアイデアを述べてみたが、その他にもツールの活用例はクラスの数だけ無限にあるだろう。筆者も試行錯誤しながら、新しい活用方法をさらに考えてみたいと思う。

4. 今後の展望・開発者としての要望 (神谷)

以上、3種類のツールについて、フランス語の授業での実践と可能性について紹介した。しかし本研究は今後もますます発展させていきたいと考えている。神谷は英語を担当する教員でもあるが、それぞれのツールに開発者として関与している。本稿を閉じるにあたって、今後の展望および開発者としての要望を述べておきたい。

今後は4つ目・5つ目のツールとして「文変形提示ツール」および「Phrase Reading Worksheet 作成ツール」をフランス語の教育現場でも活用していただきたいと考えている。前者はイタリア語の文変形の提示のために開発したものであり、1つの文型に対して5種類の変形を提示していくことで、性・数などの文法項目を学習させることができる。これは同じロマンス語であるフランス語にも応用可能であろう。後者は英語の直読直解を目的としたものであり、これはフランス語の講読授業などでも利用可能であろう。また、後者についてはWikipedia記事を利用したWorksheetを大量に作成することを計画している。いずれに関してもフランス語教育関係者の方々には「無料公開を前提としたデータ作成・提供」をお願いしたい。このことは上述の3つのツールについても同様であるが、動詞変化形提示ツール用のデータは別として、著作権をクリアした（一定の範囲内であれば無料で利用できる）データが十分でないため、なかなか利用者の拡大につながらない。しかしこうしたツールは今後のフランス語教育の改善にも寄与するところが大きいことを期待している。

なお、「文変形提示ツール」は <http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/> のイタリア語教育用ツールから、「Phrase Reading Worksheet 作成ツール」については単独の見出しのところからそれぞれ無料でダウンロードできる。

ツールの使い方等についての問い合わせ先：神谷健一, kamiya?ip.oit.ac.jp

*主な参考文献

高木美菜子・三浦由香利・神谷健一（2011）「データベースソフトウェアを利用した教材作成支援ツールの開発とロシア語教育における多面的利用の可能性」『ロシア語教育研究』第2号, ISSN 2185-2979, 日本ロシア語教育研究会, pp.25-36.

<http://rokyoken.web.fc2.com/shiryo/kaishi2011.pdf>

神谷健一・三浦由香利・高木美菜子・田原憲和・池谷尚美・柿原武史・川口陽子・黒田恵梨子・堂浦律子・井上昭彦・金善美（2012）「データベースソフトウェアの活用—外国語授業における教材提示の円滑化と授業の活性化に向けて—」『第37回教育システム情報学会全国大会 講演論文集』.

<http://www.jsise.org/taikai/2012/program/contents/pdf/E4-3.pdf>

田原憲和・池谷尚美・齊藤公輔・神谷健一（2013）「大学生を対象としたドイツ語授業におけるデータベースソフトウェア活用の考察」『立命館高等教育研究』第13号, pp.155-168.

黒田恵梨子・川口陽子・堂浦律子・井上昭彦・神谷健一（2013）「動詞活用の定着を目的とした効果的な方法の試みと実践 ～ 動詞変化形提示ツールを使用した試みを中心に — フランス語とイタリア語の場合 ～」『Rencontres』第27号, 関西フランス語教育研究会, pp.103-107.

http://www.rpkansai.com/bulletins/pdf/027/103_107_kuroda.pdf

川口陽子・黒田恵梨子・堂浦律子・井上昭彦（2014）「データベース教材を使用した授業の試み—動詞変化形提示ツールを使った取り組みと可能性について」『EBOK』第26号, 神戸大学仏語仏文学研究会, pp.51-79.

川口陽子・黒田恵梨子・神谷健一（2014）「フラッシュ型例文・対訳提示ツールを用いたフランス語の授業の実践と試み」, 『Rencontres』第28号, 関西フランス語教育研究会, pp.74-78.

http://www.rpkansai.com/bulletins/pdf/028/074_078_kawaguchi.pdf